

タイトル	表紙・目次・論文扉・奥付
著者	
引用	年報新人文学(20)
発行日	2023-12-25

# 新 人文学

Annual Bulletin  
of the  
New Humanities  
Vol. 20



【巻頭言】

人文学における「批判的思考」と  
「創造性」について  
テレングト・アイトル

【論文】

オンライン誘出模倣課題を用いた  
英語語用論的定型表現の指導  
大木七帆・大澤真也・中西大輔  
水島梨紗・田中洋也・James Ronald  
笹井宏之の短歌の研究 その一  
—第一歌集『ひとさらい』における身体語彙「手」を中心に—  
大村勅夫

芥川龍之介の「詩的精神」をめぐる言説について  
太田幸夫

「幽鬼の街」小樽を歩く—伊藤整の「坂」にまつわる感覚的表現—  
武田佑希子

北海学園大学人文学部開設30周年記念シンポジウム

## 新人文主義のフロンティア

—「耕すこと」と「食べること」から考える人文学の可能性—

【基調講演】

### 食と農の人文学

—人間を深く考えるための人間中心主義批判—  
京都大学人文科学研究所 准教授 藤原辰史 氏

◆発題①

### アフリカの農から考える人文学

北海学園大学人文学部 英米文化学科 教授 小松かおり

◆発題②

### 食の日本近代史

—「自分」を「主語」とした人文学の試み—

北海学園大学人文学部 日本文化学科 教授 郡司淳

◆成果と展望【書評】

田中綾

『あたたかき日光 ひかり 三浦綾子・光世物語』  
(北海道新聞社、二〇二三年) 林香苗

【彙報】 令和四年度 大学院文学研究科

学位論文題目一覧

文学研究科教育・研究発表活動覧

●編集後記



【巻頭言】人文学における「批判的思考」と「創造性」について テレングト・アイトル……………002

【論文】

オンライン誘出模倣課題を用いた

大木七帆・大澤真也・中西大輔

……………229

英語語用論的定型表現の指導

水島梨紗・田中洋也・James Ronald

……………(001)

笹井宏之の短歌の研究 その一

大村勅夫……………014

——第一歌集『ひとさらい』における身体語彙「手」を中心に——

芥川龍之介の「詩的精神」をめぐる言説について 太田幸夫……………050

「幽鬼の街」小樽を歩く——伊藤整の「坂」にまつわる感覚的表現—— 武田佑希子……………088

北海道大学人文学部開設30周年記念シンポジウム

新人文主義のフロンティア——「耕すこと」と「食べること」から考える人文学の可能性……………120

□基調講演

食と農の人文学

——人間を深く考えるための人間中心主義批判——……………124

京都大学人文科学研究所 准教授 藤原辰史氏

◆発題① アフリカの農から考える人文学……………150

北海道大学人文学部 英米文化学科 教授 小松かおり

◆発題② 食の日本近代史

——「自分」を「主語」とした人文学の試み——……………164

北海道大学人文学部 日本文化学科 教授 郡司淳

質疑応答……………178

◆成果と展望【書評】

田中綾『あたたかき日光 三浦綾子光世物語』……………112

(北海道新聞社、二〇一三年) 林 香苗

【彙報】

令和四年度 大学院文学研究科 学位論文題目一覧……………230

文学研究科教育研究発表活動……………236

編集後記……………238

# 年報 新 人文学

【第二十号】

二〇二三年十二月発行

目次

Annual Bulletin  
of the  
New Humanities

Vol. 20

# Annual Bulletin of the New Humanities

---

Vol. 20

December 2023

---

## Contents

### Foreword

Aitoru TERENGUTO      Reconsidering "Critical Thinking" and "Creativity"  
in Humanities Education

### Articles

Nanaho OKI Shinya OZAWA Daisuke NAKANISHI Risa MIZUSHIMA  
Hiroya TANAKA James RONALD

Instructing English pragmatic routines using an online elicited  
imitation task

Tokio OMURA      Study of the Tanka of Hiroyuki Sasai Part1  
Focusing on Body Vocabulary "Hands" at the Firstbook *Hitosarai*

Yukio OHTA      About Ryunosuke Akutagawa's discourse on "Poetic Spirit"

Yukiko TAKEDA      Walking around Otaru, basing on the novel "Streets of Fiendish  
Ghosts": Sensory Expression on "Slope" by Sei Ito

### Symposium to Commemorate the 30th Anniversary of the Faculty of Humanities Frontiers of New Humanism: the Possibilities of Humanities from 'Cultivating' and 'Eating'

Tatsushi FUJIHARA      Humanities of Food and Agriculture: Critique of  
Anthropocentrism for thinking deeply about Human Being

Kaori KOMATSU      Humanities from African Agriculture

Jun GUNSHI      Modern Japanese History of Food:  
An Attempt at Humanities with 'Self' as 'Subject'

### Book Reviews

Kanae HAYASHI      Aya TANAKA, *The Warm Sunshine : A Story of Ayako and  
Mitsuyo Miura*, The Hokkaido Shimbun Press, 2023

### Notes

### Editorial Notes

# 論 文

オンライン誘出模倣課題を用いた  
英語語用論的定型表現の指導

大木七帆・大澤真也・中西大輔・水島梨紗・田中洋也・James Ronald

笹井宏之の短歌の研究 その一

―第一歌集『ひとさらい』における身体語彙「手」を中心に―

大村勅夫

芥川龍之介の「詩的精神」をめぐる言説について 太田幸夫

「幽鬼の街」小樽を歩く―伊藤整の「坂」にまつわる感覚的表現― 武田佑希子



◆表紙の「ふくろう」について

表紙に描かれている「ふくろう」には、二重の意味が込められています。ひとつは古代アテネの「ミネルヴァのふくろう」に由来する、「知恵ないし学問」の象徴という意味です。哲学者ヘーゲルが、「ミネルヴァのふくろうは、日の暮れ始めた夕暮れとともに、はじめてその飛翔を始める」と述べたことは、つとに有名です。

もう一つの意味は、北海道に生息する天然記念物「シマフクロウ」に由来しています。

シマフクロウは、北海道のなかでも手つかずの自然が残っている場所にしか生息しませんが、その表情には思慮深い哲人を思わせる威厳があります。古来アイヌの人たちは、この鳥をコタンコロカムイ（村の守護神）と呼んで神聖視してきました。

本誌は、この「ミネルヴァのふくろう」と「シマフクロウ」にあやかつて、北の大地から新しき学問の地平をきり拓くべく、大いなる飛翔の場たらしめとするものです。

年報 新人文文学〔第二十号〕 Annual Bulletin of the New Humanities

発行日——令和五（二〇二三）年十二月二十五日 発行

編集者——北海道大学大学院文学研究科「年報 新人文文学」編集委員会

北海道大学大学院文学研究科内

〒〇六二―八六〇五 北海道札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号

電話（〇一一）八四一一―二六一〔代表〕 FAX（〇一一）八二四―七七二九

編集委員——手塚薫＋仲丸英起

発行者——郡司淳

発行所——北海道大学大学院文学研究科 札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号 電話（〇一一）八四一一―二六一〔代表〕

